



7/30

あなたの一票で
市政を
変えましょう

カジノよりも 中学校給食を

7月30日は、横浜市政を変える日。市長選で、「カジノ要らない」
「中学校給食実現」の願いを若いリーダーに託してください。

若いリーダー

百害あって一利なし バクチに頼らない

カジノは 横浜に要らない

「横浜をバクチ（カジノ）でめちゃくちゃにして良いのか！」
若いリーダーは、きっぱりといます。

ギャンブルは社会悪、百害あって一利なし。他人の不幸や不運を踏み台に「横浜の経済発展、を考えるなんておかしいです。カジノ誘致をやめるには、市長を変えるしかありません。

全国9割の中学校が実施
20政令市で未実施は横浜だけ

中学校給食を 早期に実現

中学校給食実現を求めるお母さんたちから、「お弁当を持ってこれないお子さんがたくさんいます。給食への要望は非常に強い。食育の観点からも実施を」「みんなで一緒のものを食べたい」という中学生のために給食を」などの声が寄せられています。

川崎市はことしからスタート。実施理由を「食育の充実が図られること、育ち盛りの生徒にとって栄養バランスがあり安全・安心で温かい食事を摂ることができる」としています。市民団体のアンケートに若いリーダーは、「早急に実現していきたい」と回答しています。

本気で「待機児ゼロ」の横浜を

「子どもを保育園に入れたい」—毎年、待機児童の多さが大きな問題に。待機児解消への保育園の増設などをすすめます。

小児医療費無料化の拡充をめざす

子どもの病気はまったなし。経済的な心配をせずに、安心してお医者さんにかかることは、子どもの健全な成長にとって必要です。

市民の願いに
こたえられるのは

はつきりしました

現市長は

カジノ「今は白紙」と力説しても 横浜に「必要」と表明

現市長は、カジノ誘致について「今は白紙」とあいまいな立場で、「誘致しません」とはいいません。安倍政権は、今年の国会で「カジノ推進法」を強行。その後、現市長は「横浜の成長にはIR導入（カジノ含む）が必要」と表明したほどです。

生徒に好まれない「注文弁当」、 「中学校給食実施には 応じる考えはない」

現市政は、育ち盛りの中学生に、予約制の業者配達弁当「ハマ弁」を導入しています。

ハマ弁の喫食率は、わずか1.2%で、1校当たり1日平均6食程度にすぎません（1月～5月、市の資料）。現市長や教育委員会は、中学校給食実施には応じる考えはなく、現市長は「ハマ弁を進化させる」とこだわっています。

「待機児ゼロ」はまやかし 入れない子どもが3000人

現市政は4月、保育園の待機児は「横浜で2人」と公表。373万の大都市横浜、あなたは信じられますか。実際には、認可保育園に入所できなかった子は3000人をこえています。

医療費一部負担金導入は 全国の無料化の流れに逆行

小児医療費の無料化（通院）では、さいたま市、名古屋市が所得制限なしで中学生まで無料。京都、神戸、千葉、静岡、浜松、堺の各市も中学3年生、大阪は11月から高校生までを助成対象に。横浜は、小学3年生までは無料ですが、4年生から6年生までは、一割負担に匹敵する500円の一部負担金が必要です。

あなたの一票は

市政を変える若いリーダーへ